

HITACHI

Reliable Solutions

2025年3月期第3四半期 決算説明会

2025年1月27日

 日立建機株式会社

LANCROS Japanese Excellence—Reliable Solutions

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役常務兼CMO

松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、松井よりご説明します。

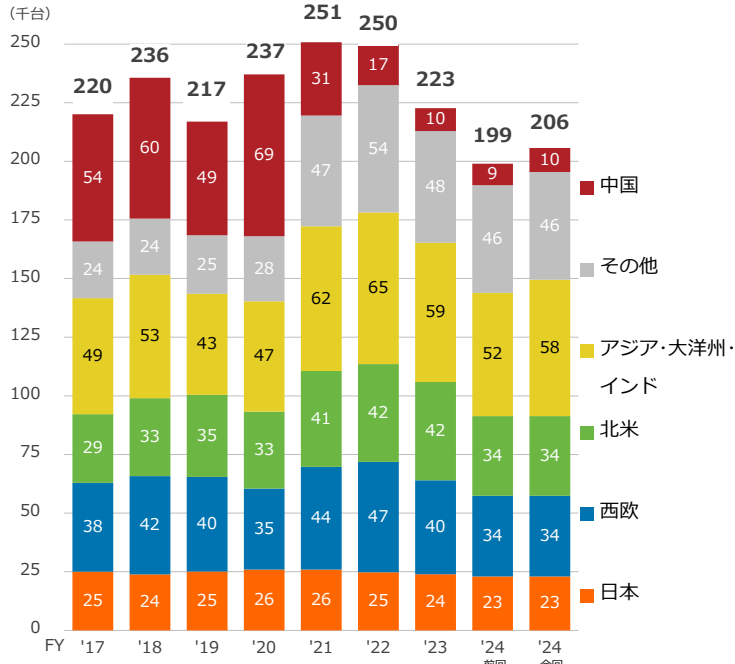
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable Solutions

新興国比率：24年度 56%（前年比+4%）

※新興国：中国、アジア・大洋州・インド、その他



*需要は日立建機の推定値

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'23	'24
合計	-11%	-8%
中国	-43%	+4%
ロシア・CIS・東欧	-16%	-9%
アフリカ	+13%	+7%
中東	+10%	-21%
中南米	-33%	+14%
その他	-12%	-3%
アジア	-17%	+1%
インド	+8%	±0%
オセアニア	-18%	-23%
アジア・大洋州・インド	-8%	-2%
北米	+1%	-19%
西欧	-15%	-14%
日本	-3%	-4%

3ページ目で、油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

24年度の需要は、前回10月の見通しから、中国、アジア、インドで需要が増加しております。

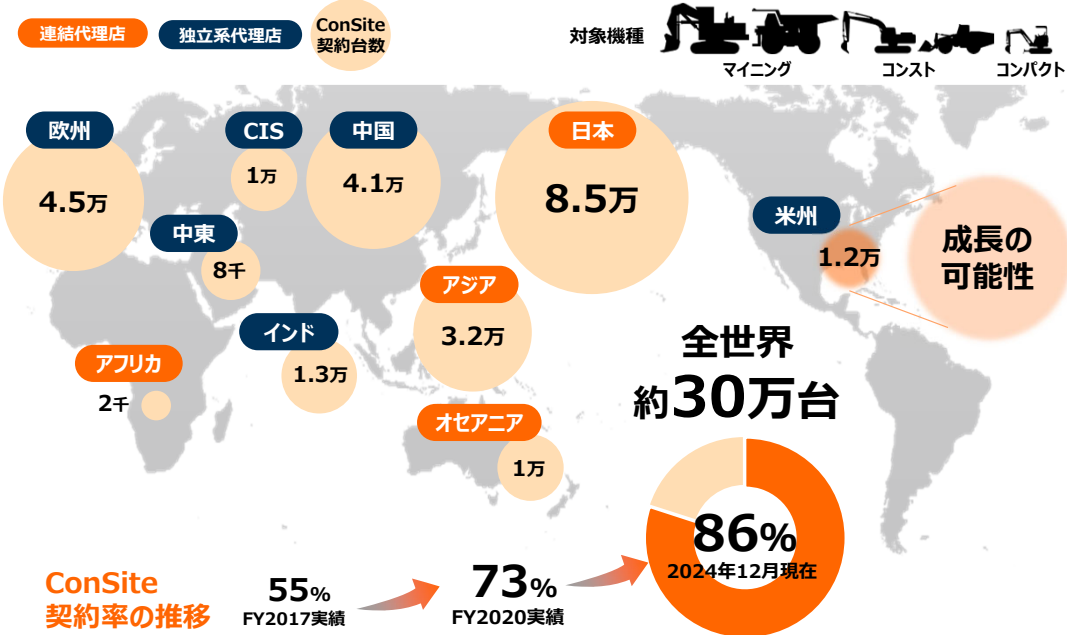
23年度に対し、西欧、日本で引き続き減少、中東、オセアニア、北米では大幅に減少し、全世界合計では、前年比8%減の20万6千台となります。

注力施策の進捗状況(1)：バリューチェーン事業

HITACHI

Reliable Solutions

全世界30万台をカバーするConSiteの活用で部品・サービス事業の収益を拡大



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

4

次は4ページ目。注力施策の進捗状況についてご紹介します。
まずは、バリューチェーン事業についてです。

日立建機は、24時間365日機械を遠隔監視で見守るサービスソリューション ConSiteをグローバルに展開しています。
ConSiteは現在契約率85%を超えており、世界中のお客さまの機械の安定稼働に貢献しています。

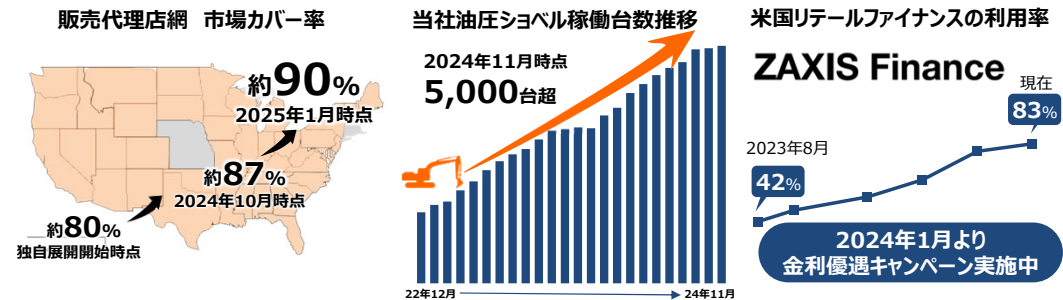
2017年度より着実に契約率を延ばしてきておりますが、米州は今後も成長の可能性
がある地域としてみています。
今後もConSiteを通じてお客さまとのタッチポイントを創出することで、部品・サービス事
業ひいてはバリューチェーン事業の収益を拡大していきます。

注力施策の進捗状況(2)：米州事業

HITACHI

Reliable Solutions

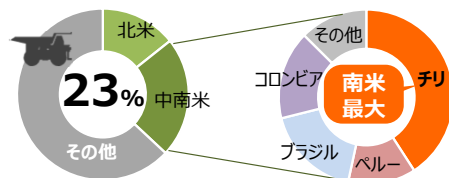
北米の市場カバー率拡大に伴い稼働台数は増加、金利優遇施策で販売促進



中南米の販売・サービス体制の構築を推進

- ・ブラジルのマイニング販売・サービス会社 本格稼働(2025年3月)
- ・チリに中南米地域統括会社を設立(2025年4月)

世界需要における中南米比率 中南米ダンプトラック需要



コンパクト・コンストラクション
販売代理店 契約締結状況

日立建機ラテン・アメリカ
(中南米の地域統括会社)

*Parker Bay統計、積載量150t以上対象。2010年～2024年の累計需要台数

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

5

次は5ページ目。米州事業の主な進捗です。

北米では、市場カバー率の拡大に伴い、当社の油圧ショベル稼働台数は着実に増加し、昨年11月時点で5,000台超まで達しています。またファイナンス合併会社がお客様の購買意欲を喚起するため、昨年1月より金利優遇キャンペーンを実施中で、リテール向けファイナンス利用率も83%にまで伸長しています。今後も需要が弱含みの中でも取れる施策を実行し、販売促進に努めます。

中南米では、販売・サービス体制の構築を推進しています。昨年、丸紅と共同で設立したブラジルのマイニング販売・サービス会社は今年の3月より本格稼働する予定です。また、今年の4月にはチリに中南米地域統括会社を設立します。

ダンプトラック世界需要における中南米比率は23%です。中でもチリはマイニングダンプトラックの南米最大の市場です。また、コンパクト・コンストラクション製品は5カ国をカバーする販売代理店と契約を締結済みです。新会社を軸に段階的に、コンストラクション製品の最大市場であるブラジルを含めた販売・サービス網の整備を進めます。

新車販売からバリューチェーン事業までグローバルにマイニング事業を拡大

米州

北米ノンコア事業を売却完了(2025年1月)、マイニング分野に投資を集中
部品・サービスに加えてスペシャライズド・パーツ・サービス事業を拡充

ブラッドケン



ペルーのミルライナー工場の生産・供給能力を向上

HEパーツ



ブレーキサプライのコンポーネント事業を買収

中央アジア

- ・カザフスタンでコンポーネント再生工場を稼働(2024年10月)
- ・カザフスタンとウズベキスタンでダンプトラック20台受注(2024年度)



再生工場内観

アフリカ

- ・フル電動ダンプトラックを鉱山現場で世界初実証中(2024年6月-)
フェーズ1: 基本性能、充放電サイクルなどの検証を完了
フェーズ2: 長期稼働におけるバッテリーの経年変化などを検証中
- ・ザンビアの再生工場を拡張予定(2025年3月)



フル電動ダンプトラック

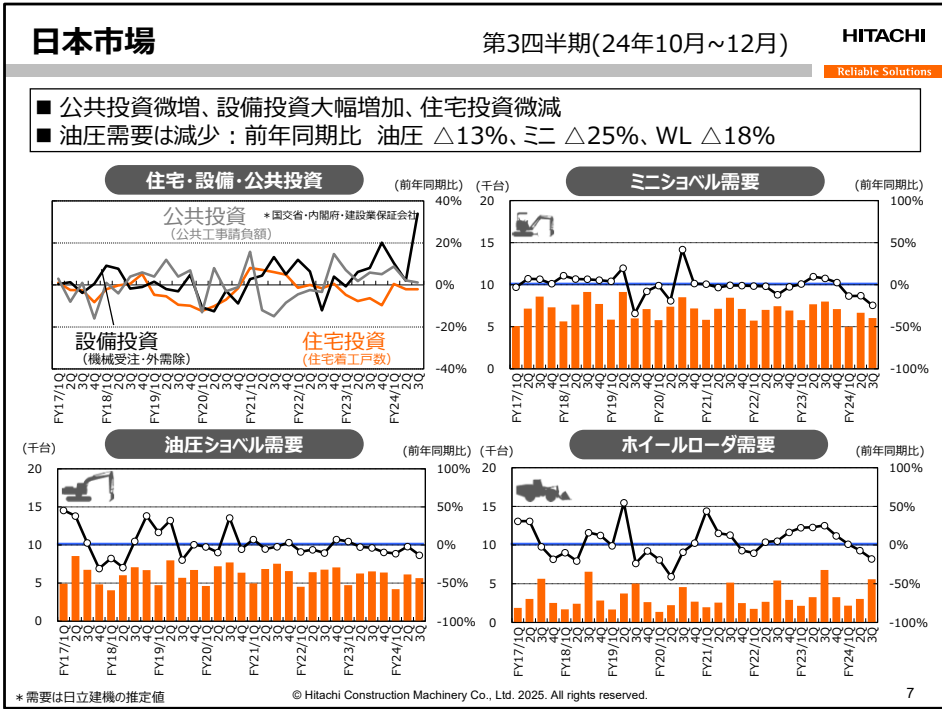
次は6ページ目。マイニング事業の主な進捗です。

米州では、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネスセグメントが北米ノンコア事業を売却し、経営資源をマイニング分野に投資を集中しています。ブラッドケンは北米のノンコア事業の売却資金を、昨年買収したペルーのミルライナー工場の生産・供給能力向上などに活用する予定です。

HEパーツは24年12月ブレーキサプライの鉱山機械コンポーネント再生事業を買収しました。部品・サービスに加えてスペシャライズド・パーツ・サービス事業を拡充します。

中央アジアでは、昨年10月、カザフスタンでコンポーネント再生工場を稼働しました。さらに今年度はカザフスタンとウズベキスタンでダンプトラック20台受注するなど、ダンプトラックの拡販に注力しています。

アフリカでは、鉱山現場で世界で初めて超大型フル電動ダンプトラックの実証試験を実施中です。試験の進捗は順調で、基本性能、充放電サイクルなどの検証を完了し、長期稼働におけるバッテリーの経年変化などの検証フェーズに進んでいます。また、稼働機械が増加傾向にあることから、ザンビアの再生工場を2025年3月に拡張予定です。新車販売からバリューチェーン事業までグローバルにマイニング事業を拡大しています。



次は7ページ目。ここから地域別の状況について説明します。
 まずは日本市場です。

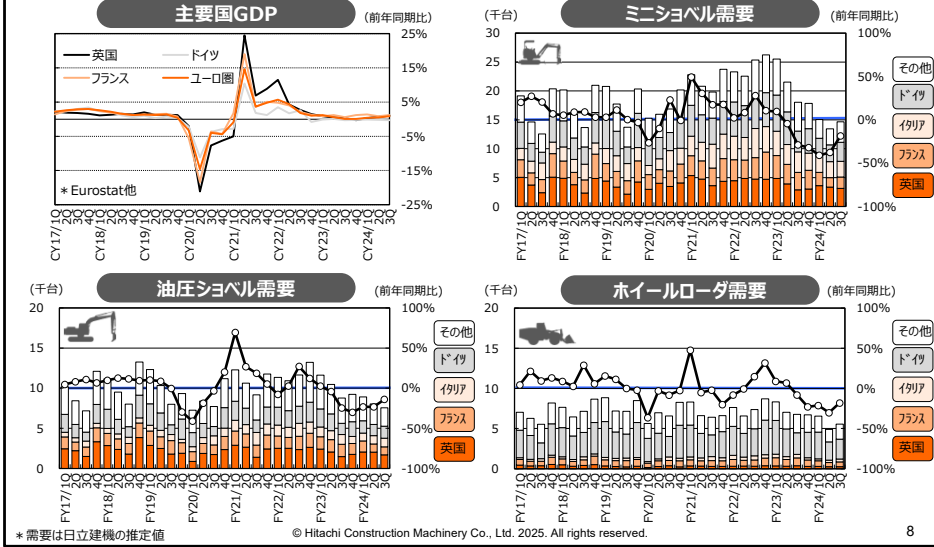
左上、第3四半期の設備投資は大幅増加、住宅投資は微減、公共投資は微増となります。

左下、第3四半期の油圧ショベル需要は、前年同期比で13%減となります。

右上、ミニショベルはコロナ後からの機械の長納期化から脱却し、納入が進んだ昨年からの反動減により25%減。

右下、ホイールローダーは18%減となります。

- 24年3QのGDPは引き続き低成長
- 油圧需要は減少：前年同期比 油圧 Δ 14%、ミニ Δ 19%、WL Δ 18%



次は8ページ目。欧州市場です。

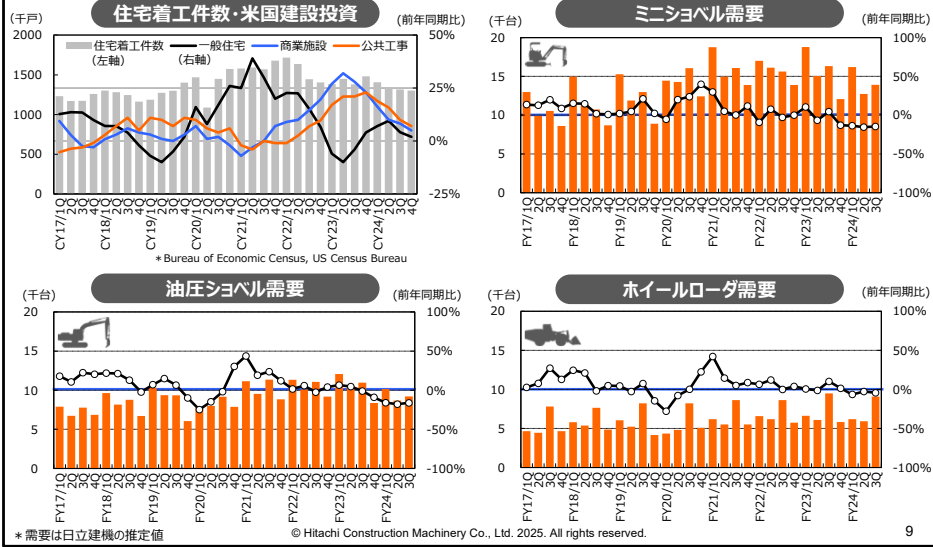
左上、主要国GDPはインフレ継続と金利高止まりの影響もあり、ユーロ圏全体で低成長が続いております。

左下、第3四半期の油圧ショベル需要は、継続する市場停滞により前年同期比で14%の減少となります。

右上、ミニショベルは前期から減少幅は縮小しますが、19%減。

右下、ホイールローダーについてもドイツを中心に大幅減となり、18%減となります。

■ 一般住宅は微増、商業施設、公共工事は共に増加も増加幅が縮小、住宅着工件数は減少
 ■ 油圧需要は大幅減：前年同期比 油圧 Δ 16%、ミニ Δ 15%、WL Δ 4%



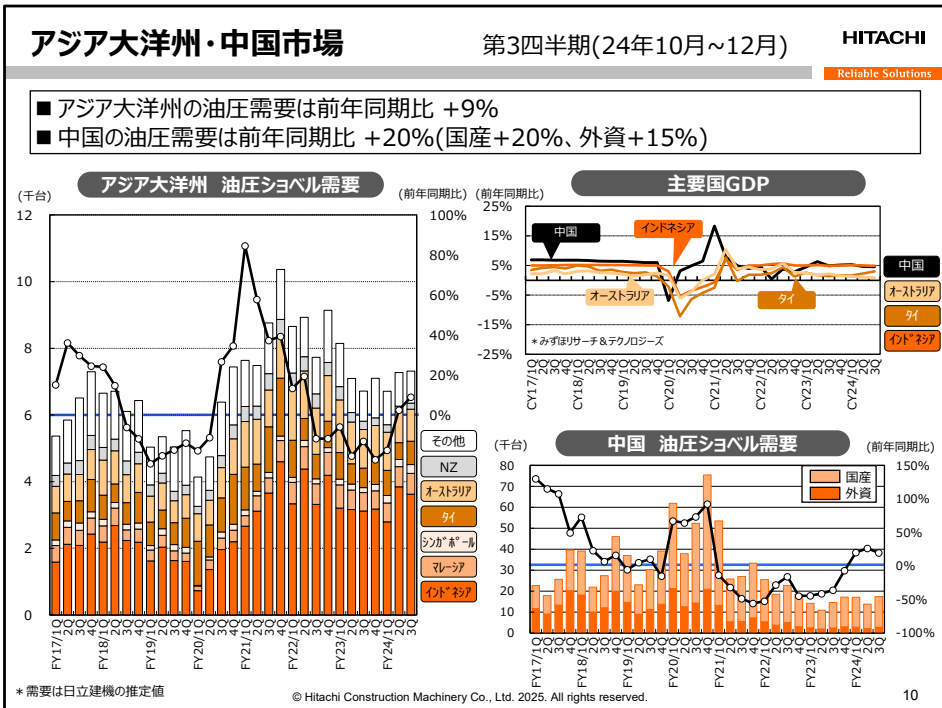
次は9ページ目、北米市場です。

左上、住宅着工件数は前期から減少し、一般住宅は微増、商業施設、公共工事は共に増加も増加幅が縮小しております。

左下、第3四半期の油圧ショベル需要は、前年同期比で16%減となり、需要減が続いております。

右上、ミニショベルは15%減となります。

右下、ホイールローダーについては4%減となります。

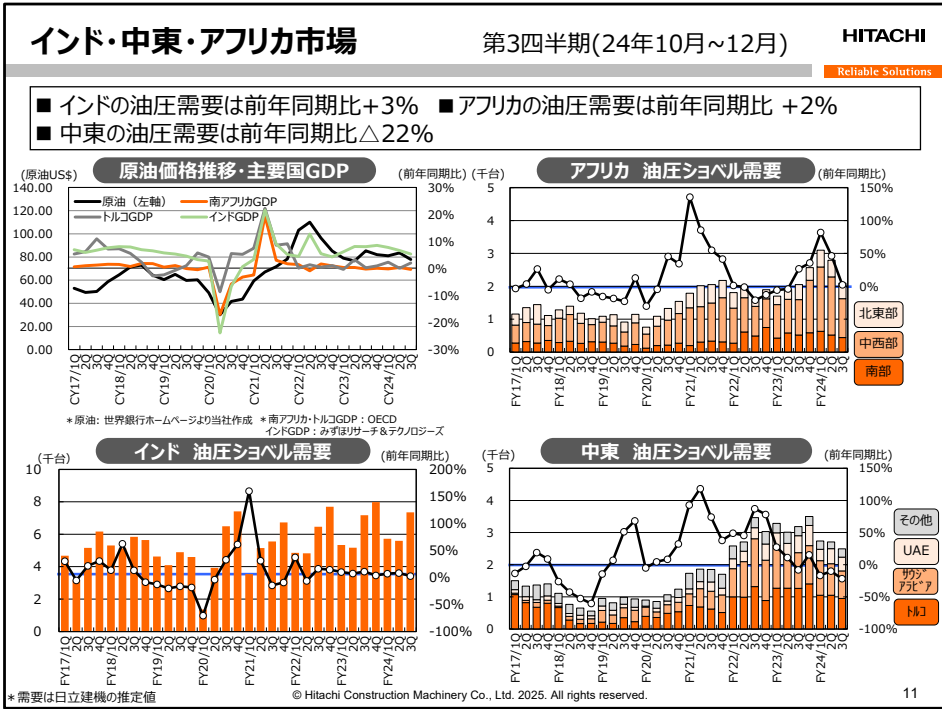


次は10ページ目、アジア大洋州・中国市場です。

右上、主要国のGDPについては、各国ともにプラス成長を維持しているものの、オーストラリア・タイは引き続き低成長。中国も、景気の回復は力強さを欠く状況となっています。

左側、アジア大洋州の第3四半期の油圧ショベル需要は、インドネシアでのフードエステートプロジェクトの特需もあり前年同期比で9%増となります。

右下、中国の油圧ショベル需要については、国産機を含めた全需要で20%増となります。内訳として国産機需要は20%増、外資は15%増となります。



次は11ページ目、インド・中東・アフリカ市場です。

左上、原油価格は前期から6ドル下落し、78ドルとなりました。
 主要国GDPについては、インドは増加、トルコは微増、南アフリカは微減となります。

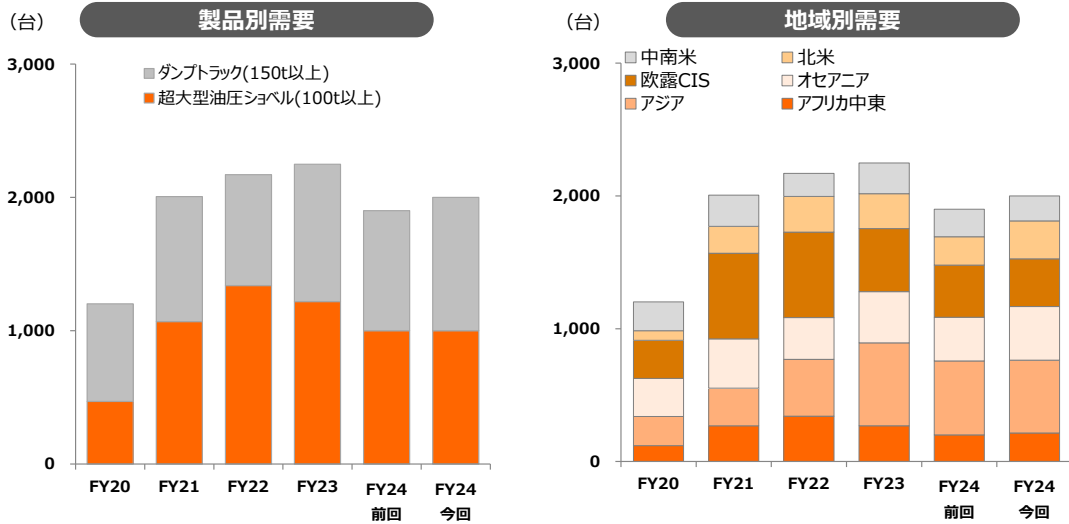
左下、インドの第3四半期の油圧ショベル需要については前年同期比で3%増となります。

右上、アフリカの油圧ショベル需要は2%増となります。

右下、中東の油圧ショベル需要は、高需要となっていた前年同期と比較すると22%減となります。

- 24年度需要は、ダンプトラックで増加あるも前回見通し（前年比△5%～△15%）から変更なし
- 100tクラスショベルはインドで減少、アフリカ、アジアで増加。ダンプトラックは米州、豪州で増加

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



次は12ページ目。24年度のマイニング機械の需要見通しです。

超大型ショベルは100tクラスで インドの選挙の影響により需要が後倒し、減少の見込みです。

一方、アフリカ、インドネシアを含むアジアの需要は堅調に推移しているため、ショベル全体では前回見通しと変更はありません。

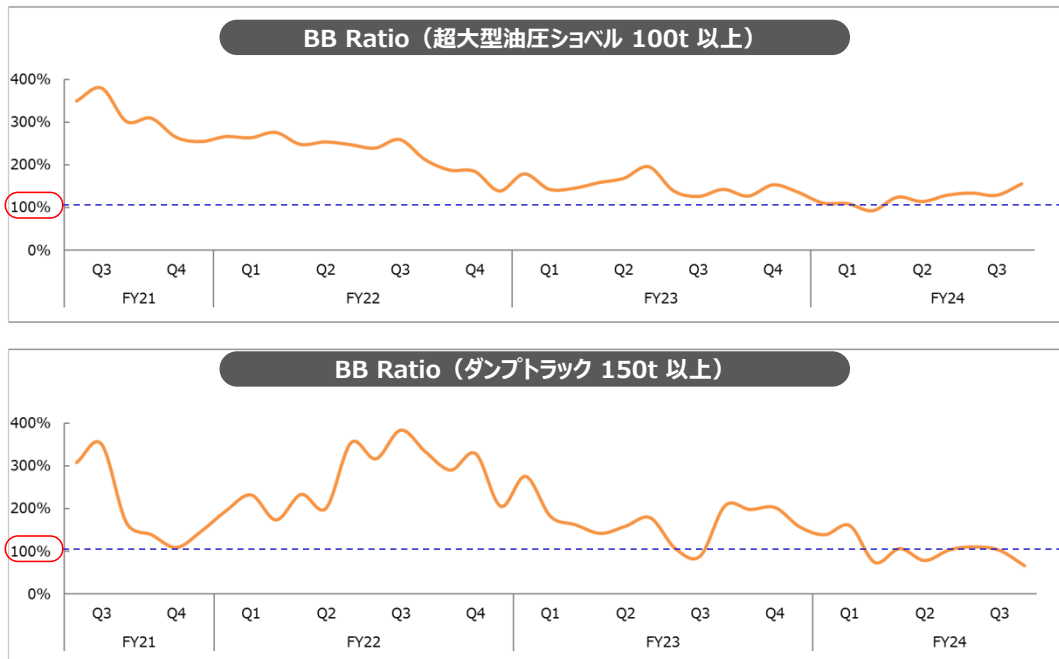
ダンプトラックは米州、オーストラリアで需要が前回見通しよりも増加しました。

マイニング需要合計では、ダンプトラックの増加により、前回見通しから増加しますが、「前年比△5%～△15%減少」の範囲内にて、変更はありません。

補足 : BB Ratio

HITACHI

Reliable Solutions



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)

当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

13

続いて13ページ目、BBレシオです。

まず第2四半期では、常陸那珂港のクレーン改修工事により一部貨物が積み残しとなり第3四半期へ後倒しとなりました。

超大型ショベルは中国、インドネシアを含むアジア、アフリカで小型系、米州、オーストラリアで大型系の新規受注があり、第2四半期積み残し分を含めても100%を大きく上回りました。

ダンプトラックはオーストラリア、CISで新規受注がありましたが、積み残し分の影響で出荷が増加し、受注を上回る形となったため100%を下回りました。

トピック：次世代の開発力を強化

HITACHI

Reliable Solutions

インドに建設機械の開発・設計を行う新会社を設立（2025年1月）

- ・グローバル向け油圧ショベル・ホイールローダの製品開発体制を強化



日立建機 開発センターインド

グローバル製品開発

200名の技術者
日本で研修

日立建機 日立建機ティエラ

グローバル製品、コンポーネント、
先端技術・ソリューションなど開発

スタートアップ先進国 米国でコネクテッド建機*のアイデアを募るピッチイベントを開催（2024年11月）

- ・オープンイノベーションを通じたソリューション開発をめざし、多様な技術・ノウハウをもつスタートアップ企業とのパートナーシップを拡大

*IoTで外部のシステムと連動する車体システム

3社
優勝企業

9社
ピッチイベント開催

127社
アイデア総数

優勝企業 3社はbaumaに共同出展

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

14

最後にトピックとして、次世代の開発力を強化するための取り組みについて紹介しておりますので、ご参照ください。

日立建機は、建設機械の開発・設計を行う新会社「日立建機開発センターインド」を設立しました。

これにより、油圧ショベルやホイールローダの次世代モデルなど、グローバルに展開する製品の開発体制を強化します。

インドは、機械工学やIT分野において優れた人財が豊富です。

今後2027年度までに採用する開発・設計者約200名は、採用後に土浦工場などで研修し、日立建機のモノづくりを習得します。

日立建機にとって、この規模のグローバル製品の開発・設計の一翼を担う開発会社を設立するのは初めてです。

また日立建機は昨年11月にスタートアップ先進国 米国でコネクテッド建機のアイデアを募るピッチイベントを開催しました。

近年、施工現場の安全性・生産性の向上やESG対応のために、IoTで外部のシステムと連動する車体システム「コネクテッド建機」の開発が進められています。

応募に対して127社からアイデアが集まり、ピッチイベントを経て優勝企業3社を選定しました。3社は2025年4月にドイツで開催されるbauma2025で日立建機と共に出展します。

多様な技術・ノウハウを持つスタートアップ企業とのパートナーシップを広げて、オープンなソリューションを提供します。

2. 2025年3月期 第3四半期 決算説明

執行役常務兼CFO

塩嶋 慶一郎

続きまして、CFOの塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私から24年度第3四半期の決算、並びに24年度通年業績予想の概要をご説明致します。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable Solutions

当第3四半期の売上収益は、前年同期比で2%減収、物量減と製品地域構成差悪化及び施策的経費の増加により調整後営業利益は15%減益、親会社株主に帰属する四半期利益は13%減益。

(単位：億円)

	24年度 第3Q累計		23年度 第3Q累計		前年同期比 増減率
継続事業					
売上収益		9,913		10,082	△2%
調整後営業利益 *1	(10.5%)	1,045	(12.2%)	1,229	△15%
営業利益	(11.7%)	1,161	(12.1%)	1,219	△5%
税引前四半期利益	(10.1%)	1,002	(10.9%)	1,101	△9%
継続事業からの四半期利益	(6.9%)	679	(7.8%)	791	△14%
非継続事業からの四半期利益		14		0	-
親会社株主に帰属する四半期利益	(6.2%)	619	(7.0%)	711	△13%
EBIT *2	(11.2%)	1,106	(11.7%)	1,182	△6%
為替					
アメリカドル		152.6		143.2	9.4
ユーロ		164.9		155.2	9.7
中国元		21.1		19.9	1.2
オーストラリアドル		100.8		94.2	6.5

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前中間利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

16

まず、P.16『連結決算の概要』をご覧ください。

24年度第3四半期累計期間の売上収益は、北米、欧州を中心に主要市場での需要減退による新車売上の減少にて、前年比2%減の9,913億円となりました。

調整後営業利益は、前年比15%減の1,045億円で、利益率10.5%、営業利益は1,161億円で利益率11.7%でありました。

親会社株主に帰属する四半期利益は、前年比13%減の619億円でありました。

コンストラクション新車需要が弱含む厳しい環境下、マイニング並びにバリューチェーン事業の伸長を維持したものの、売上収益は僅かに1兆円に届きませんでした。

また、製品・地域構成差と施策的経費の増加により、調整後営業利益は減益となりました。

尚、当累計期間の為替レートは前年比で米ドルが9.4円の円安、ユーロが9.7円、元が1.2円、オーストラリアドルも6.5円と、いずれも円安でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable Solutions

アフリカ、オセアニアで増収も、北米、欧州、アジアの減収により連結合計では170億円の減収。

(単位：億円)

	24年度 第3Q累計		23年度 第3Q累計		前年同期比		
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	
日本	1,568	16%	1,599	16%	△ 31	△2%	
アジア	843	9%	949	9%	△ 106	△11%	
インド	608	6%	586	6%	22	4%	
オセアニア	2,033	21%	1,908	19%	125	7%	
欧州	1,090	11%	1,273	13%	△ 184	△14%	
米州	北米	2,179	22%	2,403	24%	△ 224	△9%
	中南米	337	3%	299	3%	38	13%
内：独自展開	2,516	25%	2,702	27%	△ 186	△7%	
	(1,405)	(14%)	(1,502)	(15%)	(△ 97)	(△6%)	
ロシアCIS	129	1%	171	2%	△ 43	△25%	
中東	245	2%	215	2%	30	14%	
アフリカ	645	7%	465	5%	179	39%	
中国	238	2%	213	2%	24	11%	
合計	9,913	100%	10,082	100%	△ 170	△2%	
海外売上収益比率	84%		84%				

* 23年度及び24年度の実績について継続事業のみの値としています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

17

次に、P.17『連結 地域別売上収益』をご覧ください。

当四半期累計期間の売上収益は前年比で2%の減収となりました。

為替円安の影響を460億円の増収と分析しております。

地域別では、アフリカ、オセアニアにおいて、堅調なマイニング需要を取り込んだことにより増収となった一方で、北米、欧州、アジアで減収となりました。

米州独自展開においては、代理店在庫の積上げ需要が一服したことを背景に、大きく伸長した前年比較で減少しましたが、リテール販売に基づく北米市場シェアは着実に増加しております。

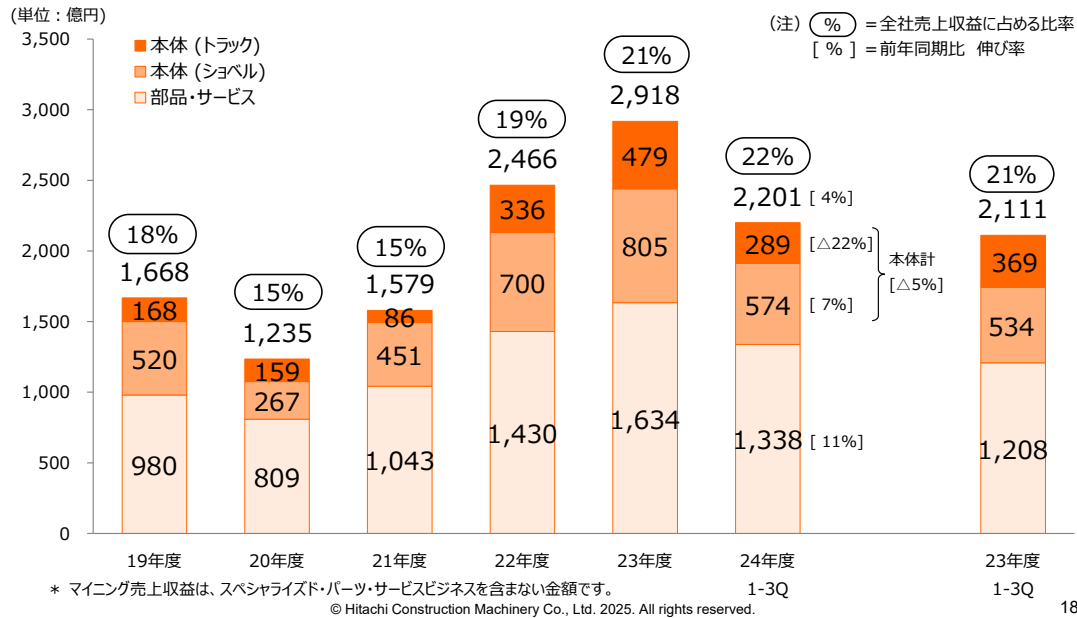
尚、海外売上収益比率は前年比同レベルの84%で推移しました。

マイニング売上収益推移

HITACHI

Reliable Solutions

トラックは減収も、ショベル、部品・サービスで増収。



続いて P.18 『マイニング売上収益推移』 をご覧下さい。

当四半期累計期間のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通りに2,201億円と、前年比4%の増収でした。

本体売上においては、トラックが前年度のインドネシアでの大口受注の反動が大きく、22%の減収となったものの、ショベルはオセアニア、中国の貢献で7%の増収となりました。

また、部品・サービスも当社が得意とするオセアニアやアフリカに加え、中南米での貢献が大きくなり、11%の増収となったことから、第3四半期累計実績として過去最高の収益を記録しました。

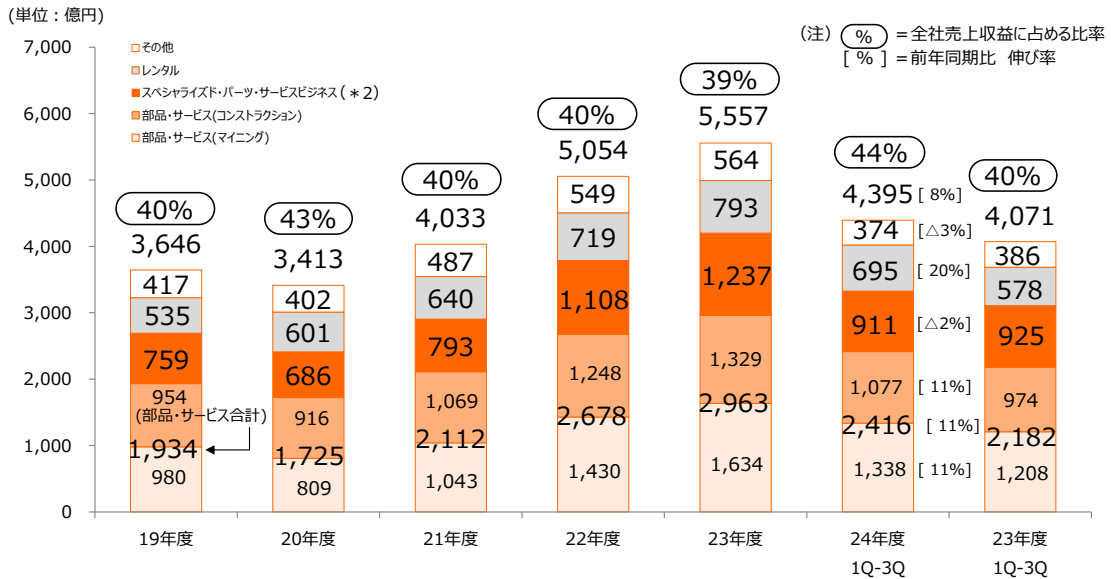
尚、連結売上収益に占めるマイニング比率も22%と前年比で1ポイント増加しました。

バリューチェーン*1 売上収益推移

HITACHI

Reliable Solutions

部品・サービス、レンタルが大きく伸長。



* 1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル等の事業合計
* 2 スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供
19年度実績より継続事業のみの値として、遡及修正しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

19

続いて、P.19『バリューチェーン』の状況です。

同じく右から2本目の棒グラフをご覧ください。

当四半期累計期間のバリューチェーン売上収益は、ご覧の通りに、前年比8%増の4,395億円でした。

当期においても、第3四半期累計実績として過去最高の収益となりました。

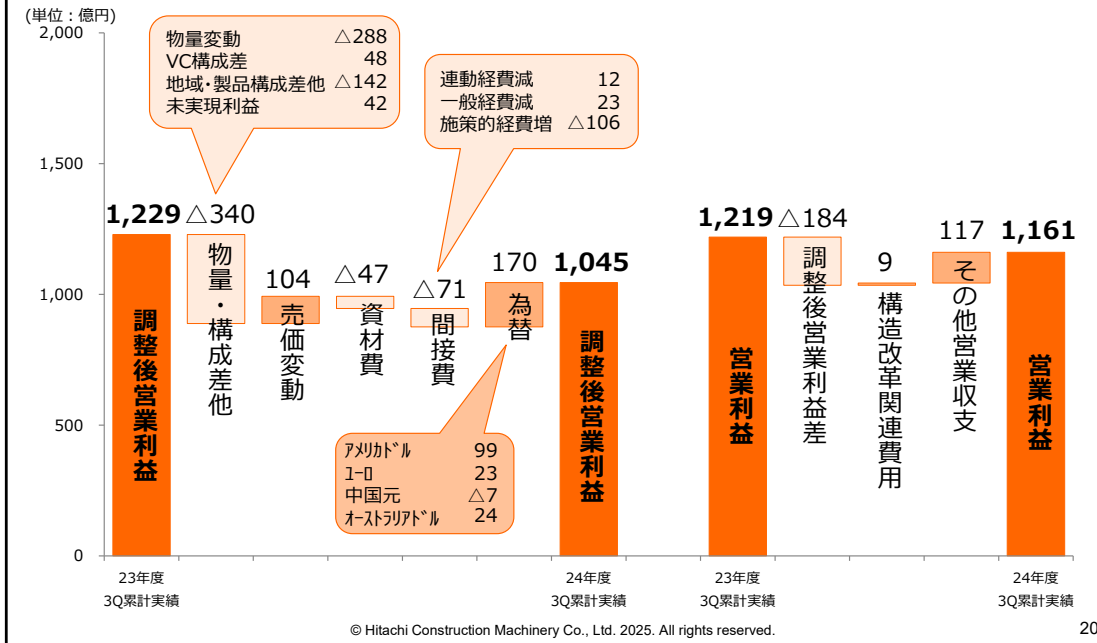
これは、部品・サービス収益が前年比11%の増収となった他、レンタル事業も20%の増収を確保したことによるものです。

また、連結売上収益に占めるバリューチェーン比率も44%と、前年比で4ポイント向上しました。

今後もさらにバリューチェーン事業の拡大に向け、しっかり取り組んで参ります。

連結損益変動要因

資材費、間接費増を売価改善で吸収するも、物量・構成差他の要因が大きく、調整後営業利益は減益。



続いてP.20は当四半期累計期間の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益が、前年比184億円の減益となった要因となります。

先ず左端、物量・構成差として、340億円の減益要因と分析しております。

吹出内に表記しております通り、

バリューチェーン構成差で48億の増益となったものの、物量減で288億の減益となった他、コンストラクションの主力市場である北米、欧州、アジアでの物量減を起因とする地域・製品構成差他142億の減益が大きく影響しました。

一方、売価変動として104億円改善を実現し、資材費47億円の増加、並びに人件費、研究開発費等の施策的経費を主体とした間接費71億円の増加をほぼ吸収しました。

為替円安影響として170億円の増益を享受するものの、調整後営業利益は、前年比184億減益の1,045億円となりました。

尚、ページ右側、営業利益においては、その他営業収支が大きく改善したことから、前年比58億の減益となる、1,161億円となりました。

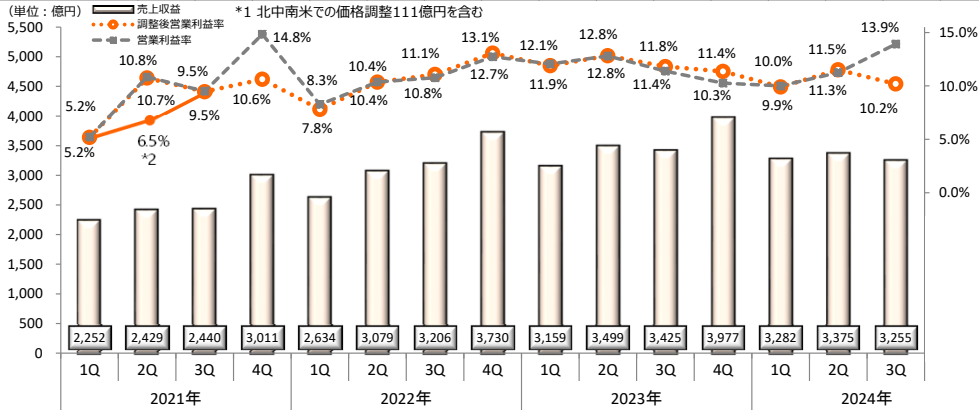
要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable Solutions

(単位:億円)

	2021年				2022年				2023年				2024年		
	1Q	2Q*	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上収益	2,252	2,429	2,440	3,011	2,634	3,079	3,206	3,730	3,159	3,499	3,425	3,977	3,282	3,375	3,255
調整後営業利益	117	261	231	320	206	319	355	487	376	449	405	451	325	388	332
営業利益	117	263	232	447	218	319	345	475	381	448	390	408	328	380	453



*2 北中南米での価格調整111億円を除く

四半期別 為替レート	2021年				2022年				2023年				2024年		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
アメリカドル	109.5	110.1	113.7	116.2	129.6	138.4	141.6	132.3	137.4	144.6	147.9	148.6	155.9	149.4	152.4
ユーロ	132.0	129.8	130.1	130.4	138.1	139.3	144.3	142.1	149.5	157.3	159.1	161.3	167.9	164.0	162.6
中国元	17.0	17.0	17.8	18.3	19.6	20.2	19.9	19.3	19.6	19.9	20.4	20.6	21.5	20.8	21.2
オーストラリアドル	84.3	80.9	82.9	84.0	92.6	94.5	92.9	90.6	91.8	94.7	96.3	97.7	102.7	100.0	99.5

21年度実績より継続事業のみの値として、適宜修正しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

21

続いて、P.21四半期別の業績推移です。

一番右側の24年度第3四半期をご覧ください。

当四半期の売上収益3,255億円、並びに調整後営業利益332億円は、
 コンストラクション主力市場の北米、欧州での需要減に基づく新車販売物量減に
 より前年同期比で夫々、170億、73億の減収、減益となりました。

調整後営業利益率も、地域製品構成差の悪化が影響し、
 折れ線グラフに示した通りに、前年同期11.8% から1.6ポイント悪化の10.2%と
 なりましたが、引き続き二けたの調整後営業利益率を確保しております。

尚、営業利益率では、『その他営業収支』の改善もあり、13.9%となりました。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable Solutions

営業債権は縮減するも為替円安影響が大きく、事業譲受も加わり総資産が前年度末比で319億円の増加。

(単位：億円)

	(A) 24年3Q	(B) 23年度末	(C) 23年3Q	(A)-(B) 増減		(D) 24年3Q	(E) 23年度末	(F) 23年3Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	1,432	1,435	1,139	△4	営業債務及びその他債務合計	2,561	2,899	2,759	△338
営業債権	2,470	3,057	2,590	△588	社債及び借入金	6,020	5,756	5,840	265
棚卸資産	5,835	5,523	5,698	312	負債の部合計	10,096	10,213	10,053	△117
流動資産計	10,643	10,772	10,120	△129	(親会社所有者帰属持分比率)	(43.4%)	(41.6%)	(40.7%)	(1.8%)
非流動資産合計	8,033	7,585	7,619	448	資本の部合計	8,579	8,144	7,687	435
資産の部合計	18,676	18,357	17,740	319	負債・資本の部合計	18,676	18,357	17,740	319
非流動を含めた営業債権	2,933	3,529	3,022	△596					
棚卸資産 内訳						(32.2%)	(31.4%)	(32.9%)	(0.9%)
本体	2,405	2,297	2,276	109	有利子負債計	6,020	5,756	5,840	265
部品	1,764	1,728	1,687	36	現金及び現金同等物	1,432	1,435	1,139	△4
その他	1,666	1,499	1,735	168	ネット有利子	(24.6%)	(23.5%)	(26.5%)	(1.0%)
棚卸資産計	5,835	5,523	5,698	312	負債	4,589	4,321	4,701	268
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/Eレシオ	0.57	0.57	0.65	0.00
営業債権 (非流動含む)	77	92	79	△15					
棚卸資産	153	143	149	10					
営業債務	39	44	44	△5					
正味運転資金	188	187	180	1					

当3Qにおいて、昨年度に買収した会社のPPAが完了したことにより、23年度末の数値は遡及して再表示しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

22

続いて、P.22は24年12月末の『連結貸借対照表』です。

前年度末24年3月末比較では、営業債権が債権流動化の拡大もあって588億円の縮減となりました。

一方、棚卸資産は北米ブレーキサプライ社の事業譲受による在庫連結組み入れもあり、312億円の増加となりました。

また、非流動資産においても業容拡大のためのレンタル資産への投資に為替換算影響も加わり、448億増加したことから、総資産は1兆8,676億円と、前年度末より319億の増加となりました。

尚、為替円安影響による増加相当額を258億と分析しております。

手持日数では、営業債権を77日と前年度末より15日短縮したものの、棚卸資産は10日延伸し、153日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末と同レベルの188日となりました。

右側の有利子負債は、前年度末より265億増加、ネット有利子負債も268億増加の4,589億円となりましたが、一時的な未収金となる北米ノンコア事業売却金などが1月にも回収となりますので一過性の増加と認識します。

結果、資本合計は8,579億円で、親会社所有者帰属持分比率は43.4%、

ネットD/Eレシオは0.57でした。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable Solutions

営業キャッシュ・フロー、フリーキャッシュ・フローは前年同期比で大幅改善。

(単位：億円)

	24年度 第3Q累計	23年度 第3Q累計	前年同期比 増減額
四半期利益（非継続事業含む）	693	790	△ 97
減価償却費	1,246	1,299	△ 53
売掛金及び受取手形の増減	676	536	140
棚卸資産の増減	414 △ 14	△ 415 △ 974	829 960
買掛金及び支払手形の増減	△ 248	23	△ 271
その他	△ 829	△ 597	△ 231
営業活動に関するキャッシュ・フロー	832	286	545
営業キャッシュ・フロー・マージン率	8.4%	2.8%	5.5%
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 519	△ 449	△ 70
フリー・キャッシュ・フロー	312	△ 163	475
財務活動に関するキャッシュ・フロー	△ 333	159	△ 493

* 青字は各区分の合計値

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

23

続いて、P.23『連結キャッシュフロー』です。

当四半期累計期間の営業キャッシュフローは、832億円のポジティブとなりました。運転資本が縮減が進み、前年比で545億の改善となりました。

投資キャッシュフローは、米州スペシャライズド・パーツ・サービス事業拡大の為にブレーキサプライ社の事業譲受もあり、前年比70億増加の519億円の支出となりました。

最終的に、フリーキャッシュフローは、前年比475億改善の312億円を確保しました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

業績見通しは、売上収益及び調整後営業利益は前回10月公表値を据え置いても、3Qでのその他営業収支の改善を織込み営業利益以下は上方修正する。

(単位:億円)

	24年度 予想		23年度 実績	前年比	
				金額	増減率
継続事業					
売上収益	<13,500>	13,500	14,059	△ 559	△ 4%
	<11.2%>	(11.2%)	(12.0%)	(△0.8%)	
調整後営業利益	<1,510>	1,510	1,680	△ 170	△ 10%
	<11.1%>	(12.0%)	(11.6%)	(0.4%)	
営業利益	<1,500>	1,620	1,627	△ 7	△ 0%
	<9.4%>	(10.0%)	(11.4%)	(△1.4%)	
税引前当期利益	<1,270>	1,350	1,605	△ 255	△ 16%
	<8.9%>	(10.0%)	(11.4%)	(△1.4%)	
継続事業からの当期利益	<890>	926	1,163	△ 237	△ 20%
非継続事業からの当期利益	<0>	14	△ 118	132	-
親会社株主に帰属する当期利益	<5.9%>	(6.2%)	(6.6%)	(△0.4%)	
	<800>	840	933	△ 93	△ 10%
EBIT	<1,398>	1,495	1,675	△ 179	

通貨	1Q-3Q 実績	4Q 予想	年度 予想	23年度 実績	前年比
アメリカドル	152.6	141.0	148.3	144.8	3.6
ユーロ	165.0	155.0	161.4	157.0	4.4
中国元	21.1	19.8	20.7	20.1	0.6
オーストラリアドル	100.8	96.0	99.6	95.0	4.5

為替感応度は
参考資料1を
ご参照ください

1株当たり配当金 *1

175円 150円 25円

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、

連結配当性向30%~40%を目安に安定的かつ継続的に実施することを基本として株主利益の最大化を図ります。

*2 24年度予想青字は24年10月公表値

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

24

続いて、今回の24年度業績予想をご説明します。

スライドP.24『要約連結損益計算書(予想)』をご覧ください。

これまでご説明して参りました当四半期累計期間の実績、需要環境に鑑み、今年度業績予想として、売上収益および調整後営業利益については、前回10月時の予想を据え置きます。

一方で、当四半期において『その他営業収支』の改善を織込んだことから、営業利益から親会社株主に帰属する当期利益は、前回公表値より増益を織込みます。

具体的には本スライドの通り、売上収益1兆3,500億円、調整後営業利益1,510億円を据え置き、営業利益を1,620億円、親会社株主に帰属する当期利益を840億円に上方修正します。

前提となる第4四半期予想為替レートにつきましては、米ドル141円、ユーロ155円他、ご覧の通りに前回10月公表の見通しレートを変更していません。

第4四半期も主力市場での厳しい需要環境が継続すると予想致しますが、セールスシーズンとして新車売上増を図るとともに、注力する米州事業、マイニング、およびバリューチェーン事業の着実な伸長を図ります。

尚、P.29に、参考資料1.として、第4四半期の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度を掲載しましたので、ご参考願います。

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

前回公表値に対し、欧州や日本は下方修正するも、アフリカ等を増額修正し、合計値は据え置く。

(単位：億円)

	24年度 予想		23年度 実績		前年比		
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	
日本	2,198	16%	2,269	16%	△71	△3%	
アジア	1,189	9%	1,270	9%	△81	△6%	
インド	881	7%	850	6%	31	4%	
オセアニア	2,547	19%	2,511	18%	36	1%	
欧州	1,429	11%	1,829	13%	△400	△22%	
米州	北米	3,239	24%	3,344	24%	△105	△3%
	中南米	427	3%	409	3%	18	4%
	3,666	27%	3,752	27%	△87	△2%	
内:独自展開	(2,251)	(17%)	(2,175)	(15%)	(76)	(3%)	
ロシアCIS	205	2%	234	2%	△29	△13%	
中東	311	2%	347	2%	△36	△10%	
アフリカ	759	6%	704	5%	55	8%	
中国	316	2%	292	2%	24	8%	
合計	13,500	100%	14,059	100%	△559	△4%	
海外売上収益比率	84%		84%				

* 23年度の実績及び24年度予想について継続事業のみの値としています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

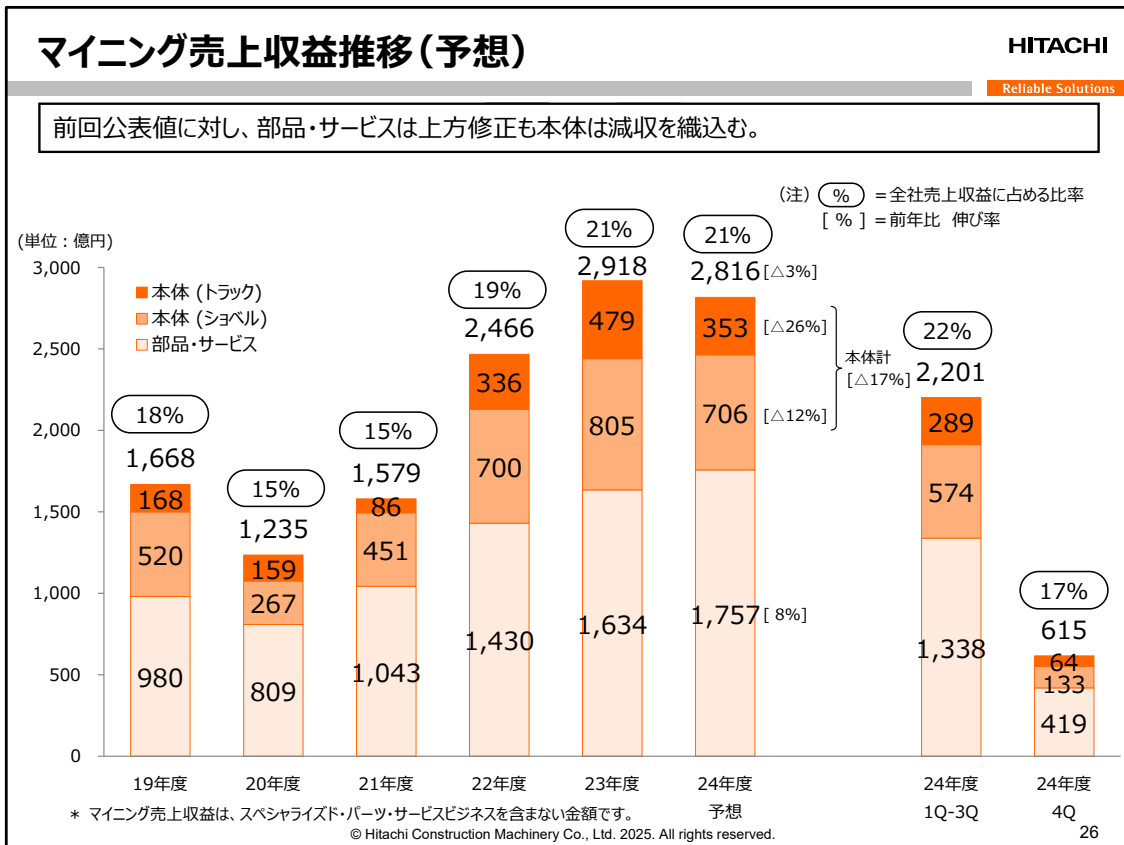
25

続いて、P.25『地域別売上収益の予想』です。

当年度売上収益見通しについては、前回予想、前年比559億減収の13,500億円を据え置きます。尚、為替円安影響を323億の増収要因と分析します。

欧州、アジア、北米で減収を見込む他、今回は日本でも減収修正を織込みます。一方、アフリカ、中南米、中国で、増収修正を織込みます。

尚、海外売上高比率は、前年と同レベルの84%を見込みます。



次に、P.26『マイニング売上収益予想』です。

本年度のマイニング売上は、前年比3%減収の2,816億円を見込みます。

10月時見通しより5億の減収修正を織り込みますが、引き続き、高い水準での収益を維持します。

機械本体はトラックとショベル合計で、前年比17%の減収を見込む一方、部品・サービスでは8%増収の予想です。

売上構成比は、前年同様の21%を見込みます。

北米でのショベル受注減による減収と、アフリカ、中南米での部品・サービス増収を織り込みました。

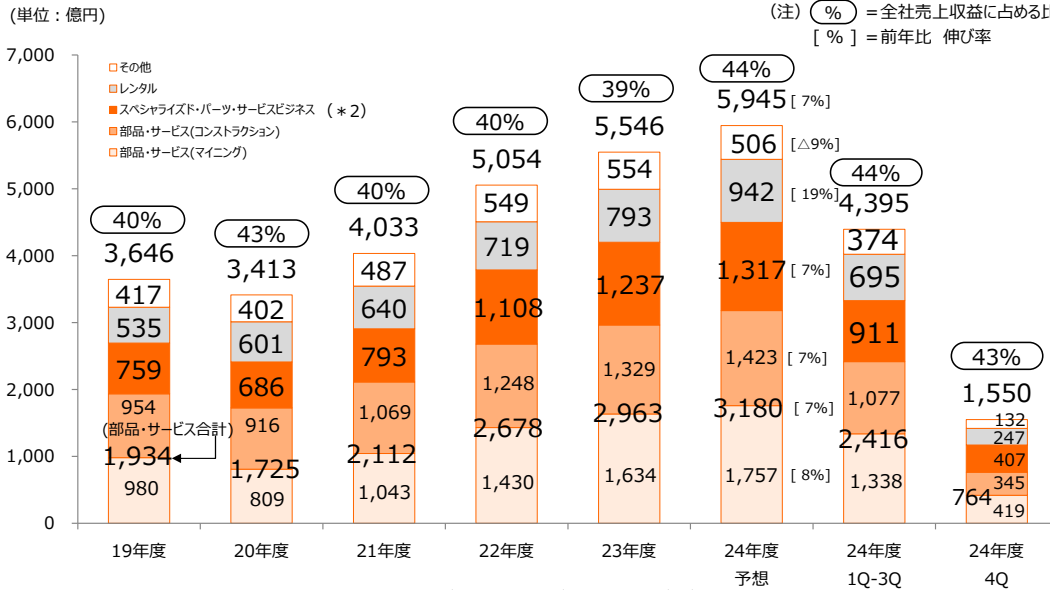
尚、P.30に参考資料 2.として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

前回公表値を上方修正。部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタルで増収を織込む。



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル等の事業合計
*2 スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供
19年度実績より継続事業のみの値として、遡及修正しています。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2025. All rights reserved.

27

続いて、P.27『バリューチェーン売上収益推移(予想)』をご覧ください。

本年度のバリューチェーン売上収益は、前年比7%増収の5,945億円を見込みます。

10月時見通しより、部品・サービス、スペシャライズド・パーツ・サービス、並びにレンタルを主体に136億の増収修正を織り込むと共に、引き続き過去最高収益の更新をめざします。

個別では、部品・サービスを、コンストラクション、マイニング向け合計で前年比7%増の3,180億円、スペシャライズド・パーツ・サービスで7%増の1,317億円、レンタルにおいても19%増の942億を夫々見込みます。

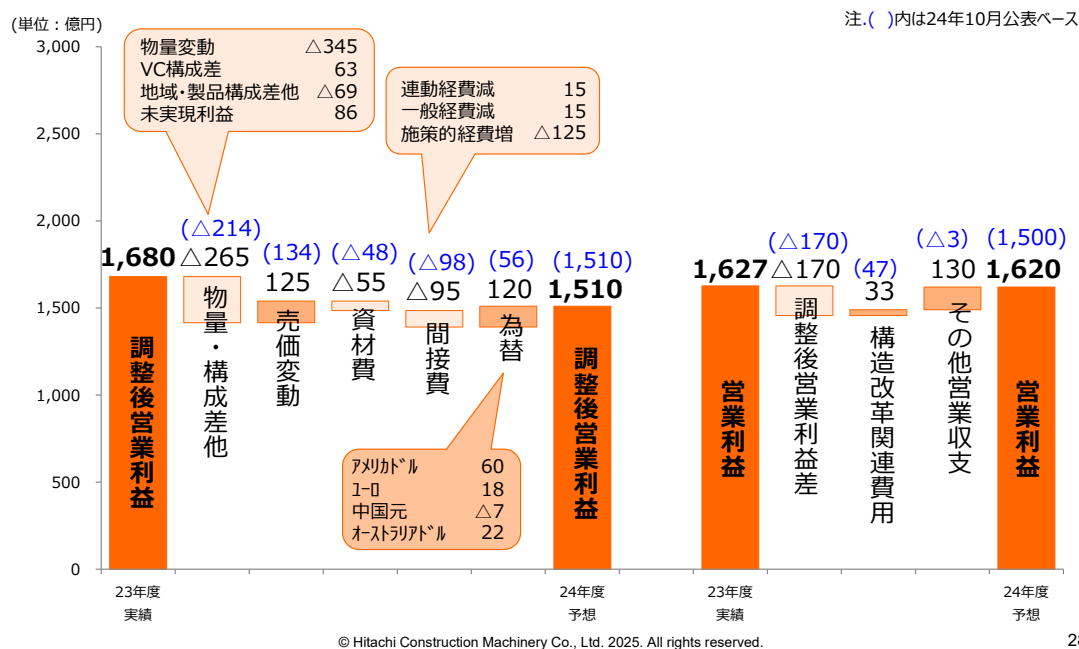
売上構成比は、前年比 5%増の44%を見込みます。

連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

前回公表値から、物量減あるも為替の円安効果により調整後営業利益は据え置く。営業利益は3Qでの
 その他営業収支の改善を織込み上方修正する。



ご説明の最後となりますP.28『連結損益変動要因(予想)』をご覧ください。

24年度調整後営業利益が前年比で170億の減益を見込む1,510億円となる 要因
 をご説明します。

まず、物量・構成差として265億の減益を織込みます。
 内訳として、物量変動345億の減益に加え、欧州、北米を初めとする主力市場での物
 量減、およびマイニング本体販売減による構成差悪化等で69億の減益を
 織込みます。

一方、未実現利益の繰延調整は、前年度117億の繰延による減益要因から、
 本年度は31億の繰延に縮減することで前年比86億の増収を織込みます。

売価変動については、125億に改善幅を縮小しますが、資材費55億増、および
 間接費95億増の大方の吸収を織込みます。

通年で120億の為替増益を見込みますが、調整後営業利益は前年比170億円の減
 益となります。

ページ右側 営業利益では、構造改革関連で33億の改善を織込む他、当四半期にお
 ける『その他営業収支』の改善により、前年比で7億の減益となる1,620億円に上方修
 正致します。

次ページ以降に参考資料を3枚付けておりますので、ご参照下さい。

以上でご説明を終わります。有難うございました。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable Solutions

24年度予想レートは、前回10月公表時の為替レートから変更なし。

為替レート及び為替感応度

(単位:億円)

通貨	為替レート				感応度(4Q)		
	24年度			23年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q-3Q 実績	4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	152.6	141.0	148.3	144.8	1円円安になった場合	10	4
ユーロ	164.9	155.0	161.4	157.0	1円円安になった場合	3	1
中国元	21.1	19.8	20.7	20.1	0.1円円安になった場合	1	0
オーストラリアドル	100.8	96.0	99.6	95.0	1円円安になった場合	7	1

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable Solutions

(金額：億円)

		24年度予想			23年度実績			差額		
		1-3Q累	4Q	年度	1-3Q累	4Q	年度	1-3Q累	4Q	年度
米州	ショベル	248	78	326	233	129	362	15	△ 51	△ 36
	トラック	83	12	94	75	34	109	8	△ 22	△ 15
	計	331	90	421	308	163	471	23	△ 73	△ 51
欧阿中東	ショベル	216	81	296	221	123	343	△ 5	△ 42	△ 47
	トラック	351	74	424	230	126	356	120	△ 52	68
	計	566	154	720	451	248	700	115	△ 94	21
アジア・大洋州	ショベル	931	248	1,178	901	299	1,201	29	△ 52	△ 22
	トラック	312	104	415	429	79	508	△ 117	24	△ 93
	計	1,243	351	1,594	1,331	378	1,709	△ 88	△ 27	△ 115
中国	ショベル	52	17	68	11	14	25	41	3	44
	トラック	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	計	53	17	70	11	14	25	42	3	45
日本	ショベル	8	3	11	6	3	9	2	△ 0	2
	トラック	0	0	0	4	0	4	△ 4	△ 0	△ 4
	計	9	3	12	10	3	13	△ 1	△ 0	△ 2
合計	ショベル	1,455	426	1,881	1,372	568	1,940	82	△ 142	△ 59
	トラック	746	189	935	738	239	978	8	△ 50	△ 42
	計	2,201	615	2,816	2,111	807	2,918	90	△ 192	△ 102

* マイニング売上収益は、スペシャライズド・パーツ・サービスビジネスを含まない金額です。

参考資料3：セグメント情報

HITACHI

Reliable Solutions

スペシャライズド・パーツ・サービスビジネスの調整後営業利益は、PPA（資産再評価）償却費として24年度第3四半期累計実績には10億円、24年度予想にも13億円をそれぞれ含む。

(単位：億円)

24年度 第3Q累計	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス		
売上収益	9,002	978	△ 67	9,913
調整後営業利益	10.5% 943	10.4% 102	-	10.5% 1,045

(単位：億円)

24年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス		
売上収益	12,183	1,385	△ 68	13,500
調整後営業利益	11.1% 1,348	11.7% 162	-	11.2% 1,510

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

日立建機グループでは、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標のうち、**10項目の重点目標を設定しています。**

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

Hitachi Construction Machinery Group

LANDCROS

Japanese Excellence—Reliable Solutions

真のソリューションプロバイダーへ

「革新的ソリューションをすべてのステークホルダーに提供したい」

LANDCROSはその想いの証です。

END

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

【商標注記】

「AERIAL ANGLE」「ConSite」「Solution Linkage」「ZCORE」は、日立建機株式会社の登録商標です。

2025年1月27日

 日立建機株式会社